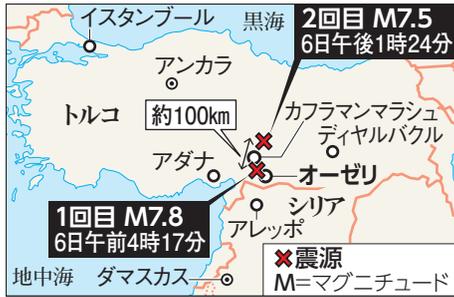


救急科 竹田津医師が2023年2月22日の朝日新聞（夕刊）に掲載されました

被災地支援 私たちの番

トルコ南部日本の医療チーム「3・11の恩返し」

大地震に襲われたトルコで、日本政府が派遣した国際緊急援助隊の医療チームが被災者らの診療を続けている。隊員たちは12年前、東日本大震災で日本に救助隊を送った親日国トルコへの恩返しを口にする。災害を通じた両国の交流は深く、トルコ派遣が今回で3回目の隊員もいる。



19日、トルコ南部オーゼリの学校敷地内に張られたテント。ストープで手をやけどしたという女兒(2)に、千葉・松戸市立総合医療センターの竹田津史野医師(36)が「手をグーパーし



せきが出るという女性(右)を診察する竹田津史野医師(中央)＝19日、トルコ南部オーゼリ、佐藤達弥撮影

トルコ・シリア大地震
トルコ南部で6日、マグニチュード(M)7.8と7.5の地震が相次いで発生し、両国でこれまでに計4万7千人以上が死亡。トルコでは、倒壊あるいは深刻な被害を受

けるなど、被災した建物は約11万8千棟に上る。内戦下のシリアには国際社会の支援が届きにくく、深刻な人道危機が懸念されている。20日にはトルコ南部でM6.3の地震があり、両国で少なくとも11人が死亡した。

に下がる中、せきが止まらなくなったり、余震に驚いて転倒し、けがをしたりした被災者ら、1日あたり約100人を診察している。援助隊が活動する学校の建物には、被災したオーゼリ公立病院が一時移転して

いる。共通の窓口で患者を受け付け、けがの程度や症状に応じてどちらが対応するかを決める。トルコ側が設備を持っていないX線検査や透視は、日本側で引き受けている。セダト・オズデミル院長は「日本のスタッフは規律正しく、非常にうまく連携できている」。

てみて」と声をかけた。やけどはかさぶたになっ
ており、東京・武蔵野赤十字病院の堀智志医師(39)が「自然にかさぶたが取れれば大丈夫。1週間後、もう

一度見せて」と説明。父親のムスタファ・ボズゲイクさん(33)は「わかった」と笑顔になった。記者の取材に、「日本に家族を残し、トルコまで来てくれたことに感謝したい」と答えた。

日本政府は6日の地震直後、国際緊急援助隊の救助チームを派遣。救助チームは被害が深刻な南部カラマンマラシユで活動し、15日に帰国した。翌日から、オーゼリに派遣された医療チームが診療を始めた。

滋賀県長浜市の看護師、金沢豊さん(63)は99年のトルコ北西部地震でも援助隊に2回参加し、今回が3回目のトルコ派遣だ。「派遣時期が比較的暖かかった99年と違い、今回のような極寒のミッションでは医療機器のトラブルに注意する必要がある。自分たちの健康管理にも気をつけたい」と話す。

ともに災害大国

福島県郡山市の臨床検査技師、渡部典子さん(61)は東日本大震災の時、同市内の病院で働いていた。車のガソリンの供給が不足する中、病院は最小限の人数だけが出勤する態勢に。渡部さんは自宅待機の日々が続き、「何もできなかった」との思いが残っていた。「トルコでも大勢の人が家を失った。両国は歴史的な縁も深く、1890年に和歌山県沖でトルコ軍艦エルトゥー

1日に100人診察

医療チームは、援助隊に登録している全国の医師や看護師ら75人からなる。トルコ政府の要請をふまえ、手術や入院ができる機材を政府専用機で持ち込み、12人が入院可能な設備を整えた。夜間の気温が零下10度

とも災害大国の日本とトルコは、大地震の際に助け合ってきた。1万7千人以上が死亡した1999年のトルコ北西部地震では、日本は救助隊を送ったほか、仮設住宅1900戸を提供した。2011年の東日本大震災では、トルコ側が救助隊を派遣した。

医療チームは、援助隊に登録している全国の医師や看護師ら75人からなる。トルコ政府の要請をふまえ、手術や入院ができる機材を政府専用機で持ち込み、12人が入院可能な設備を整えた。夜間の気温が零下10度

とも災害大国の日本とトルコは、大地震の際に助け合ってきた。1万7千人以上が死亡した1999年のトルコ北西部地震では、日本は救助隊を送ったほか、仮設住宅1900戸を提供した。2011年の東日本大震災では、トルコ側が救助隊を派遣した。

とも災害大国の日本とトルコは、大地震の際に助け合ってきた。1万7千人以上が死亡した1999年のトルコ北西部地震では、日本は救助隊を送ったほか、仮設住宅1900戸を提供した。2011年の東日本大震災では、トルコ側が救助隊を派遣した。